

重み付け

THMS

マネージメント情報

太田

1. 世界での成績配分の重み付け

今、輸入精液は普通に使用されており、根室管内では全体の約 45%が輸入精液を使用しているのが現状です。

今主に日本で使われている精液の輸出国は、アメリカ・カナダ・イタリア・オランダの、この 4 カ国です。様々な国の特色が入った乳牛の改良がなされていて重み付けとは、そこの国が向かっていく改良の方向性を表しています。

1) 成績配分と方向性

成績配分を大きく分けて、「能力・体型・健康形質」と主要な 3 形質になります。世界的に健康形質を成績配分に入れたのは 2000 年以降で、それから徐々に増え始め、2014 年以降には世界平均の健康形質配分は 30 %以上になっています。

図 1 能力・体型・健康形質の重み付け

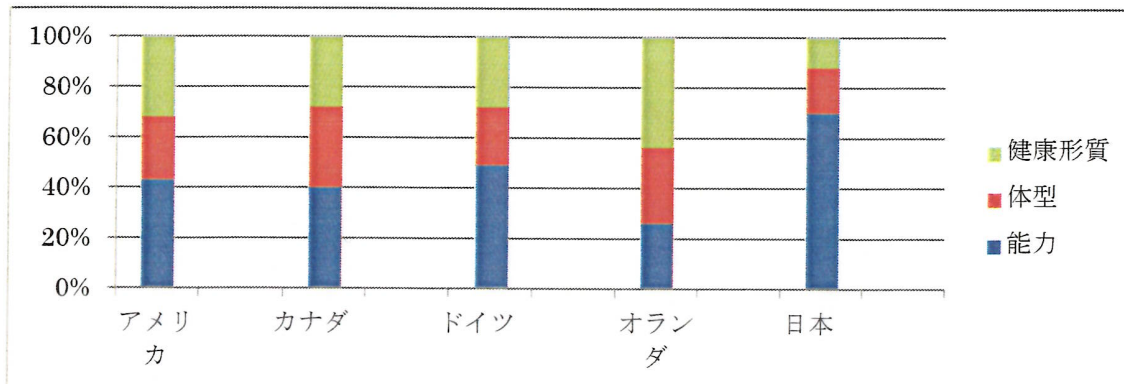


図 2 重み付けから見た、能力配分の内訳

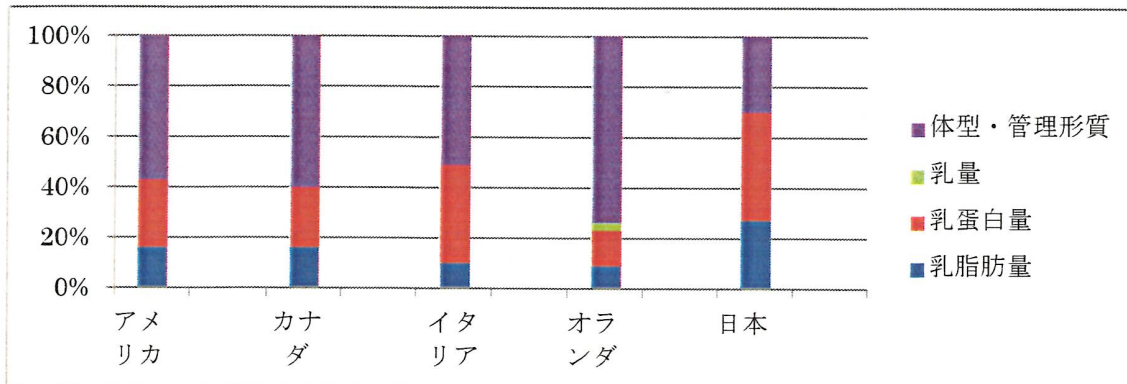
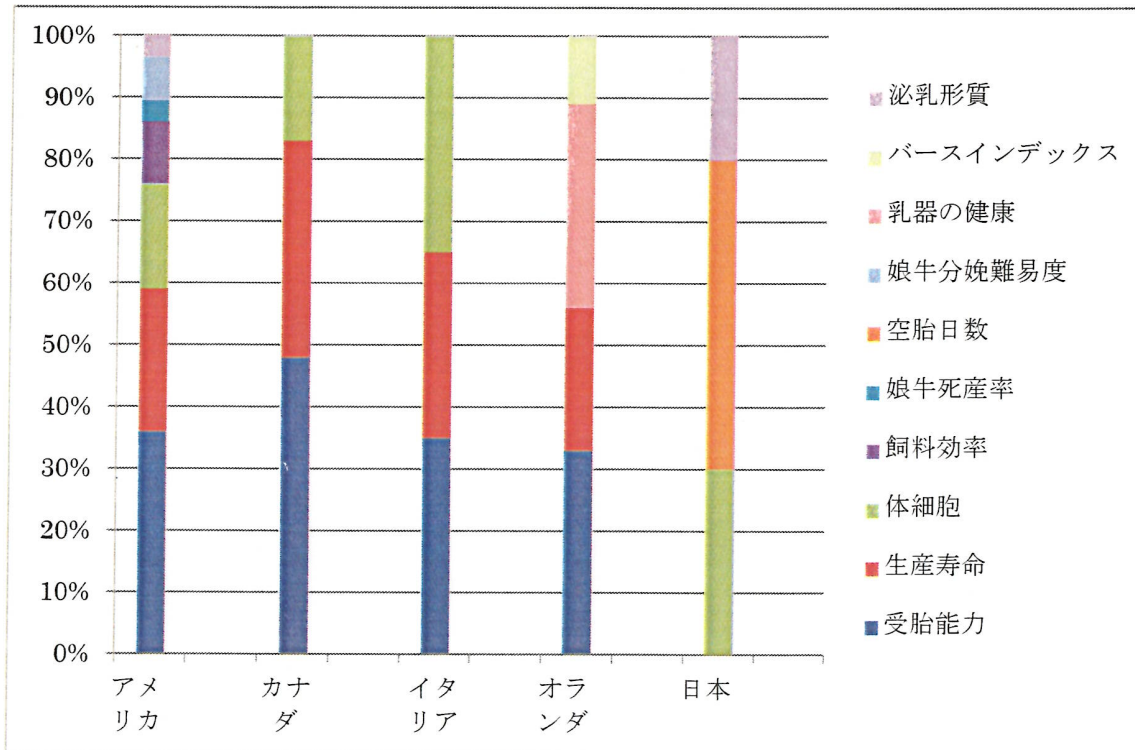


図 2 を見て頂くと日本の重み付けは 70%が能力配分を占め、乳蛋白質量の配分が 43%と大きくある

ため改良重点だと解ります。

図 2 管理形質の配分



2) 方向性の違い

選定表にはランキングの高い様々な重み付け方法が違う国の種牛が選定に入れていると思います。しかし NTP・TPI の順位だけで、様々な種牛を選んでしまうと一つの農場で能力配分が 70%～26% の差や、蛋白質量が全体の重み付の 43%～14% 差があるなどと、バラバラ牛群になる危険性があります。

3) 今後の改良方向

改良方針が、能力（蛋白量・乳脂量）や体型（乳器・肢蹄など）それとも健康形質（繁殖性・体細胞・娘牛受胎率など）を改良したいのか、はっきりさせる事がとても重要です。

改良方針がバラバラになってしまうと、牛群での飼養管理や施設環境、搾乳効率に影響してくる事になり、結果、牛群管理からはみ出た牛は淘汰されてしまいます。これを防ぐため多数の種牛は使用せず、似たような改良の方向性を持った 3～4 種類の種牛を使用する事で、牛群改良の方向性が見え次の改良をしやすくし、また牛群管理で同じような能力を持った牛が増えれば管理もしやすくなっていくと思われます。